

派遣報告書（報告者：中屋敷 大）

大会名	第 77 回全九州高等学校バスケットボール競技大会
開催地	鹿児島県
日 時	令和 6 年 6 月 15 日（土）～ 16 日（日）
担当ゲーム 1	（男子） 瓊浦（長崎県） vs 九州学院（宮崎県）
クルー	CC:山口 憲昭 U1: 中屋敷 大 U2: 川畑 龍輝
担当ゲーム 2	（男子） 九州学院（宮崎県） vs 柳ヶ浦（大分県）
クルー	CC: 山口 憲昭 U1: 中屋敷 大 U2: 澤邊 匡佑
（担当ゲーム） Pre-Game Conference	
【担当ゲーム 1】 基本的なプライマリの確認 留学生対日本人の攻防に対する目の当て方 【担当ゲーム 2】 エッジのプライマリの確認 留学生に対する守り方（体の寄せ） ブラージにならないためのプライマリの確認 ヘルプディフェンダーの確認	
（担当ゲーム） Post-Game Conference	
【担当ゲーム 1】 違和感に対してすぐに反応して、答え（判定）を出そうとしてしまう。プレーがどのように始まり、どちらに責任があるのか。オヴィアスでないものを無理に判定している。最後の絵が出来上がるまで待つ。また自分の中でその現象に対して、分析する時間をしっかり作ることで判定の質を高める必要があった。 留学生に対しての判定は、プライマリーレフェリーが見えなくても、アングルを捉えているレフェリーが鳴らすことができ、クルーワークは良かった。 【担当ゲーム 2】 クルーとして入れなければならないところには笛を入れ、タフな試合ができた 説得力を増すために、立ち居振る舞いや、ベンチへのコミュニケーションの取り方は、もっと自分の中で研鑽を積む必要がある 絵が出来上がるのを待ちすぎて、笛を鳴らすタイミングが遅くなった。その結果、判定に不信感を与えてしまうケースがあった。ケースによっては早めの笛を入れるなどの工夫が必要だと感じた。	
今大会に参加しての感想など インターハイ前でチームも仕上がってハイレベルな試合を 2 試合担当させていただきとても貴重な体験をさせていただきました。2 試合とも男子のゲームで、留学生がいるチームを担当しました。目の当て方やインテンシティのコントロールなどの面では、県内で多く経験させていただいているので落ち着いて判定することができました。しかし、判定以外の所、特に審判としての存在感の面ではもっと磨きをかけないといけないと感じました。ベンチへのコミュニケーションも短くわかりやすく、相手が何に疑問に思っているのかななどを瞬時に判断すること、時には強く自分の判定を示すことなどはまだ未熟であると感じた。また、確証のない違和感なプレーに対する判定もしっかりと自分の中で分析する時間を作り、より正しい判定に磨きをかけないといけないと感じました。試合後にはインストラクターの方からもアドバイスをもらい次へのステップアップのきっかけを作ることができました。 今回、派遣をくださった大分県バスケットボール協会の皆様、審判委員会の方々へ深く感謝し、報告とさせていただきます。	